

【教育1】新たな教育理念・ビジョンに基づく教育の質保証

1. 宇部学園ビジョン2030の浸透

- (1) 建学の精神・教育理念・ビジョン2030をステークホルダー（教職員、学生、保護者、高校生、地域等）へ周知する。
 - ① 在学生には、オリエンテーションで資料を用いて説明するとともに、オリエンテーションの重要性を周知し、出席を促す。新入生には、入学式や式後のオリエンテーションの学長・学部長の挨拶で触れるとともに、初年次教育で周知する時間を確保する。
 - ② 非常勤意見交換会において、FD研修として建学の精神・教育理念・ビジョン2030について説明する時間を設けることで、非常勤講師への周知に努める。

2. 教学マネジメントの機能強化

- (1) 内部質保証を確保するための自己点検・評価活動及び外部評価を継続的に実施する。
 - ① 自己点検・評価活動の一環として、これまで蓄積したデータを学内で一元的に共有する。
- (2) 新たな教育理念との整合性を図るために、3つのポリシーを見直し、学内外に周知する。

※「3つのポリシー」とは、「ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」「アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）」をいう。

 - ① すべての授業の初回で、ディプロマ・ポリシーや学習成果との関係に触れる。
 - ② 学部内会議及び教授会で、ディプロマ・ポリシーの見直しについて、検討する。
- (3) 教育の質の向上を図るために、学修成果を量的・質的に把握・分析できるツールを検討・開発し、教育課程の見直しや学生への指導に活用する。
 - ① 大学のデータベース保存用フォルダ（IRフォルダ）への入力・活用方法並びにアセスメント・ポリシー細則に定めた指標について検討・見直しを行うとともに、アセスメント・ポリシー細則、別表第一に定めた指標の数値を中心として、学修成果を把握するために指標となりうる数値をIRフォルダへ入力し、いつでも活用できるようにする。
 - ② 学修成果の把握・測定のためのルーブリック評価表によって、学生が自らの学びを適切に評価できているか検討を行い、必要に応じて改善を図る。
 - ③ 授業時間外の学修時間を確保するため、初回の授業時に、学生に対して、教員がシラバスにおける事前事後学習の実施について説明する。

【教育2】教育内容・方法の改善

3. Society5.0の時代に求められる新たな資質・能力を兼ね備えた人材の育成

- (1) 新たな教育理念に基づき、現行の教育課程を修正し、運用する。
 - ① ビジョン2030の達成に向けた大学全体の運営方針との整合性を図ったうえで、教育課程や教職課程の適切な運用が行われるよう、経営部門、事務部門、教学部門の意思統一を図る。
 - ② 各授業科目の達成目標、内容を新たなディプロマ・ポリシーに沿って再確認・修正するとともに、履修者の成績、授業アンケートの評価等を参考に必要に応じて授業改善を行う。
 - ③ 学生の主体的な学びを促すために、学期ごとのオリエンテーションやチューター面談による個

別の履修指導を徹底する。時間外の学修については、教員から示された課題や予習・復習に限らず、学びの内容を深めたり、学びの幅を広げたりするような学修、キャリア形成のための学修等に取り組むように、オリエンテーション等を通じて呼びかける。

(2) 新学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針等の改正内容を踏まえて、教育課程を再編成し、運用する。

① 教職課程認定基準の改正（令和3年8月）の趣旨に沿った履修モデル（カリキュラム・マップ）を作成し、学生の履修指導に活用する。

② 免許法施行規則等の改正（令和3年8月）の趣旨に沿って ICT 活用指導力に関する授業科目を体系的に新設・再編し、運用する。

(3) 主体的な学びへの動機付けとなる、体系的な初年次教育の内容を検討し、実施する。

① 現行の入学前セミナー、入学前課題の内容について入学者へのアンケート調査を実施し、その結果を検証したうえで、必要に応じて修正、実施する。

② 令和4年度新設「大学教育基礎演習」（両専攻とも卒業必修）を「初年次教育」として体系的に再編成し、カリキュラム等検討委員会での検討を踏まえて必要であれば各プログラムの内容を修正して、前期に開講する。そのうえで、受講後には授業アンケートを兼ねた「振り返りシート」を実施し、効果検証を行う。

(4) 地域を活用した教育プログラムのあり方を検討し、実施する。

① 地域の山口大学、山口県立大学、本学の3大学が連携した SPARC 事業を活用した、本学の新たな取組や教育改革について、効果的な発信を行う。

② SPARC 教育プログラムについて、全学体制による推進のため、ディプロマ・ポリシーや学修成果との整合性や連携開設科目の内容等にかかる大学全教職員との共通理解等を図る意見交換や協議会を実施する。

③ 「子ども学」「グローバル学」科目群等において、地域の小中学校、施設、企業、組織等と連携した企画を計画し、実施する。

④ 県・市町の教育委員会等が実施する教育現場におけるボランティア活動や教員養成プログラム（教師力向上プログラム、学校体験制度等）について、学生の積極的な参加促進を継続する。

4. キャリア教育・キャリア支援の充実

(1) 学部を主体としたキャリア支援センターとの連携による個に応じたキャリア教育・キャリア支援のプログラムと体制を確立し、運用する。

① 初年次教育（3-(3)）にキャリア形成の考え方について盛り込むとともに、オリエンテーション等の機会に進路選択についての指導をしていく。

② 学部内の就職支援について、現行の教職、保育職に加え、一般職にも担当者を配置し、キャリア支援センターとの情報共有を図る。

③ 卒業生のキャリアの状況を把握するためのアンケートを実施し、本学のキャリア支援の在り方を検討する。

(2) 教職・保育職を目指す学生に対しては、専門性に特化した就職支援体制を確立し、運用する。

① 現在実施している就職支援に関する科目や演習等の指導（課外における個別・グループ指導を含む）を、より一層、組織的・計画的なものにするとともに、学生個々の希望進路や習熟度等に応じた、多様できめ細かなものにする。また、教育職においては、教員採用試験の早期化に係る国の動向も見据えながら、柔軟かつ機動的な対応ができる体制も整えておく。

② 学生アンケートや、学生 FD をはじめとした学生の意見を踏まえ、学生一人ひとりの多様なニ

ズに応じたより一層きめ細かな指導や支援を行う。

5. 学生・生徒の生活支援の充実

(1) 多様化する学生に対応できる学修支援・学生生活支援の体制を確立し、運用する。

- ① 学生アンケート（全学年に実施）や学生 FD による学生の意見や教員からの意見を参考に、学生からの相談体制（学生相談室、チューター制度等）の現状の課題を抽出する。
- ② 大学内各部署の教職員の意見を参考に、障がいのある学生等への対応（合理的配慮、情報保障等）についての現状の課題や想定される課題を抽出し、方向性について検討する。

【教育 3】地域連携活動

6. 地域との連携推進

(1) 大学の人材・施設等を活用した地域貢献活動を企画し、実施する。

- ① 大学や大学教員による、積極的な地域貢献活動を継続する。
- ② 学生のボランティア活動等、積極的な地域貢献活動を継続する。
- ③ 「山口学芸大学と山口県立華陵高等学校との教育連携事業に関する協定書」に基づき、同校の教員又は生徒の本学への訪問や、本学教員又は本学学生の本学への訪問を計画的に実施する。
- ④ 「山口市との包括連携」及び「やまぐち共創プラットフォーム」に積極的に関わりながら、地域の課題解決や地域貢献事業としての組織的な取り組みを継続するとともに、これらの事業を通してビジョンに掲げた課題解決能力やコミュニケーション能力を備えた人材を育成する。
- ⑤ 秋吉台国際芸術村と連携し、「芸術人材育成プログラム」の一環とした企画展や連携事業を進める。また、これまでの事業を通して、本学ときらめき財団との地域貢献活動の効果も検証し、宇部学園各部門との一体的な活動を継続して進める。

【運営 1】ガバナンス強化と業務の組織化

7. 持続可能な組織整備と運用

(1) 学長直轄の組織体制整備を行う。

- ① 学長のリーダーシップを支える機能強化のために、学長企画会議においては、将来構想も含めた重点事項の抽出と課題解決に向けた協議を進める。

(2) 「働き方改革への取り組み」と「学生数に応じた適正な教職員体制の維持」の観点から人事計画の点検と改善を行う。

- ① 学生数及び大学設置基準・教職課程認定基準に応じた適正な教員体制を維持し、教育研究機能のさらなる充実のための人事計画について、毎年度定期的な点検と改善を行う。併せて、毎年度末に、今後の教職課程の継続、充実のための教員体制の点検を行う。
- ② 令和 5 年度においては、適正な運営体制の維持を図るため、令和 4 年度末の退職者等を考慮し、3 名を新たに採用する。

(3) 「デザインスタジオみらい」の活動を推進する。

- ① 「デザインスタジオ・みらい」の活動成果を大学の広報ツールとして活用し、学生募集や大学広報活動として発信する。

8. 教職員の知識・能力、資質向上とマネジメント力強化

(1) 知識・能力、資質向上に資する体系的な FD/SD 研修を企画し、実施する。

①FD/SD 委員会を中心として、SPARC を大学の学修活動に生かすための全学共通の研修会を企画・実施するとともに、「大学リーグやまぐち」や「SPARC のコンソーシアム」等が主催する研修会への組織的・計画的な参加を通して、教職員の資質・能力を向上させていく。

②全学的な取り組みとして、授業の相互参観を実施し、授業改善に資する。

③学生の代表が参画する授業改善等を図るための FD 研修会を実施し、教員の授業改善等に資する。

(2) 教学マネジメント、教職課程等に関して研究するワーキンググループを組織し、その成果を第三期中期計画に反映させる。

①教学マネジメント、教職課程に関して研究するワーキンググループをカリキュラム等検討委員会の中に位置づけ、情報収集・整理し、結果を取りまとめて学科内で共有する。

9. 学部・学科等組織再編の検討と実施

(1) 適正な学生数を確保するため、入学定員や収容定員の管理を実施する。

①中期計画期間 5 年間の学生数予測と入学定員や収容定員の適正な管理による、大学設置基準に基づいた認可申請の検討を行う。

(2) 大学院(研究科)の現状について多面的に分析し、存在意義・可能性について検討する。

①研究科会議を定期的開催し、先行する連合教職大学院の事例を参考にその可能性について協議し、将来の具体的にあり方を構成員全体で検討する。

10. 部門間連携強化

(1) 法人内部部門間連携による教育プログラム(実習・イベント・発表)の在り方について検討し実施する。

①亀山幼稚園、慶進中・高等学校における教育実習(見学実習を含む)等について、現状の課題を抽出し、より効果的な方法を検討し、実施する。

【運営2】リスクマネジメント強化

11. 学校安全対策の検証と強化

(1) これまでの危機管理対応に加え、新型コロナ対策も踏まえた実質的な体制を整備し、授業、入学試験及び学生生活等についてマニュアル化を図る。また、諸活動を通じて見直しを図りながら大学運営を行う。

①危機管理対策本部会議において、「危機管理基本マニュアル」等に基づき、事業継続計画(BCP)の周知徹底及び事業継続マネジメント(BCM)等の運用を行う。

(2) 防災訓練の充実を図る。

①「危機管理基本マニュアル」及び「学校安全計画」、「消防計画」に基づき、これまでの年1回の防災訓練の充実と災害を想定した避難訓練を行う。

【運営3】学生・生徒募集

12. 学生・生徒募集活動の強化

(1) 専攻別に全選抜区分の入学後の学修状況を調査・分析し、入学者選抜の妥当性を検証する。

①過去3年間の入学生の選抜区分と入学後の学修状況の相関について調査・分析結果を踏まえ、令和4年度から実施された総合選抜を含め、年内の推薦入試の見直しを検討し、入学者の確保を

目指す。

(2) 全選抜区分の志願者について分析・検証し、今後の学生募集（広報戦略）の方針と方策について検討する。

- ① 今年度実施した選抜方法と結果を踏まえ、見直し（試験科目・実技科目等）を検討・実施し、収容定員の充足を目標に、入学者数の確保を目指す。
- ② 高校生に対して、本学の魅力を情報発信できる広報戦略を検討する。
- ③ 高校生や地域のニーズを分析し、ウェブサイトの内容充実と情報発信の強化を図る。

【財政 1】自己収入増と経費抑制

13. 経営判断指標「A」の維持

(1) 定量的な経営判断に基づく経営状態の区分（学校単位）での「A」段階を維持する。

- ① 大学・短大部門における中期計画期間5年間の収入・支出シミュレーションを行い、収入見込に対する人件費・教研費・管理経費のバランスを意識しながら、経営状況の検証を行う。

(2) 経常費補助金の確実な獲得を目指す。

- ① 「経常費補助金特別補助」及び「私立大学等改革総合支援事業」の申請による経常費補助金の追加配分の獲得を図る。(3) 外部資金及び寄附金等の獲得に関する取り組みの強化を図る。

(3) 外部資金及び寄附金等の獲得に関する取り組みの強化を図る。

- ① 令和4年度に引き続き、科研費等の競争的研究費の獲得のための研究助成制度を継続し、令和6年度科学研究費助成事業の申請に向けた方針のもとに傾斜配分をする。

【財政 2】施設・設備・構内環境の点検と改善

14. 施設・設備の計画的な整備

(1) 財政的観点からのキャンパスデザイン構想の確立と施設・設備の計画的な導入をする。

- ① 「施設整備・ICT整備ロードマップ」に基づき、【13-1-1】で検証した収支バランスを考慮し、施設・設備計画を実施する。
- ② 環境整備計画に基づいた学内の施設、設備の点検を実施し、コスト節減を図るとともに、年度毎に計画の内容を検証する。
- ③ 以下の施設設備整備・環境整備を予定する。

<施設設備整備・環境整備予定>

令和5年度 設備計画

- イ) F20 改修及びF30 教室の改修・什器整備
- ロ) L棟2号棟の解体及び周辺外構整備
- ハ) 情報基盤サーバ更新

